

日本福音ルーテル教会 宣教百年信仰宣言

明日の教会にむかって

前文

私たちは、日本福音ルーテル教会宣教百年記念大会に集まった者も、時を同じくしてそれぞれの場所で同じ主を礼拝している者も共に、一人の信仰者として、主にある群れとして、主のみ前に、また日本と世界に対してこの信仰宣言を公けにします。

I. 心新たに主のみ前に立って感謝する

日本福音ルーテル教会は、アメリカ南部一致ルーテル教会から派遣された宣教師たちによって九州・佐賀の地で初めて礼拝がなされた1893年に始まりました。今、私たちはキリストの教会の歴史と宗教改革の信仰の伝統の中でこの宣教百年を迎え、心新たに主のみ前に立っています。

父なる神は、私たちが愛してくださり、御子イエス・キリストの十字架と復活のみ業によって私たちの罪を赦し、永遠のいのちを与えてくださいました。そして、聖霊なる神は今も、私たちが導き支えてくださっています。わけても、主はこの日本の地に福音を豊かに与えてくださいました。今、私たちは、海外のルーテル諸教会とその宣教師、代々の教職、多くの先輩信徒の献身的な働きを覚え、心を熱くしています。彼らは、独自の文化的宗教的伝統をもつこの日本社会の中で、幾多の試練を乗り越え、伝道と奉仕の業に努めてきました。

私たちは、これら全てを神の摂理と信じ、それ故、主を愛し、畏れ、信頼し、心より感謝いたします。

II. 深い痛みのうちにざんげする

主はこの世界の創造主であり、歴史の支配者です。この主が、私たちにキリスト者としての使命をお与えになりました。しかし今、近代日本の百年余に重なる私たちの教会の百年の歴史を省みると、主のみ言葉に聴き続けえなかったことを、深い痛みの中でざんげします。

とくに、第二次世界大戦を含め十五年戦争のあいだ、私たちの教会は神のみを神とする十戒の第一戒を守り抜くことができず、また平和を実現するやうにとの主の戒めを生きることができませんでした。

その結果、私たちの教会は、1941年の日本基督教団合同に際して、ルーテル教会の信仰告白をあいまいにし、戦争の勝利を祈り、協力しました。こうして、行なうべきではなかったことを行なってしまった罪と、行なうべきだったことを行なわなかった罪とを、神と隣人の前に、とりわけアジアの人々の前に犯しました。しかも、私たちはこの事実を目を向けることをせず、今に至るまで公けに悔い改めもざんげもしないできました。

さらに今日、物の豊かさのみが求められ、強い者が弱い者を切り捨てる競争社会の中で、ともすれば私たち自身はそのことに無反省となり、多くの隣人を苦しめ、また自然を破壊しています。

また、私たちには、日本の豊かな文化と伝統の中で、福音を根づかせる務めが課せられておりましたが、それも十分には果たしていません。

そして、なによりも日々の生活の中で、主のみ言葉に深く聴くことが少なく、福音を家族、子ども、友人、社会に伝える責任を満たしていないのです。

私たちはこれら全てを主のみ前に心よりざんげし、主と隣人の前に赦しを願い求めます。

Ⅲ. 希望のうちに決意する

この宣教百年のときに当たり、私たちは改めてルーテル教会の会員として、キリストの使命を、主に対しても、この世界に対しても果たすことを決意します。

神は福音宣教のために教会を建てられました。私たちは、まず、キリストご自身が果たしてくださるその教会の形成をこの日本の地において担います。「キリストの体」としての教会の形成です。ルターも教えているように、私たちは「みな祭司として」教職信徒一体となり、キリストの恵みのみを土台として、聖書に深く聴き、熱心に祈る教会を建設します。福音の喜びと永遠のいのちの希望に満ちあふれた教会、力強く伝道する教会、愛と真実の交わりに生きる教会をこの地上に具体化します。

私たちは、試練の中で、罪と戦っているとはいえ、その中で、教職も信徒もみことばに深く学び、信仰に裏付けられた社会生活を送り、その恵みを世界に向かって大胆に証しします。また、とりわけこの時代の中で、女性も男性も伝統的な役割分担にとらわれることなく、一人一人の持てる力を、主のために捧げます。

こうして、私たちは真に福音的な教会となって、キリストの教えとみ業がこの日本の地にふさわしく、豊かに、確実に伝えられるよう、福音宣教の業に力強く励みます。また、世界のルーテル教会との交わりをいっそう深め、さらに諸教会との主にある一致を目指しつつ、宣教の協力に努めます。

また私たちは、教会に対する責任のみならず、神の国を地上にもたらすためにこの世界に対してもとりなしの祈りと働きを神から託されています。すなわち、神によって与えられたいのちを守ること、正義と平和の実現、全ての人々の和解、全ての被造物が創造の目的にかなって完成されることのために努力します。核兵器をはじめとするあらゆる武力のない世界を目指し、全ての差別がなくなるように努め、小さく弱い人々、貧しく悲しんでいる人々の真実の友となり、共に歩みます。これらの奉仕の業に一人一人が真剣に、喜んで仕えていきます。

これらのことはみな、神の支えの中で、ただイエス・キリストに聴き、聖霊に導かれて、初めて果たされることばかりです。主はあがないと創造のわざをご自身で必ず完成すると約束しておられます。この三位一体の神への信頼と終末の希望とに生かされ、私たちはこの決意を表明します。

「マラナ・タ、主よ、来てください。」